

このたび改めて発足致しました日仏東洋学会 La Société Franco-Japonaise des Etudes Orientales の会則と
会員名簿をお届けするに当りまして、過日の再建総会のあらましをお伝え致します。

再建総会は、七月二十二日五時半より、日仏会館二階会議室で開かれました。発起人会では、「東洋」の意味をフラン
スのに広義に解釈して、再建総会開催の通知状はその意味での関係の方々にし上げておきましたが、当日までに学会へ
参加を申しこまれた方は六五名で、当日の総会へは、関西から来られた方も含めましてその約半数（二九名）が出席され
ました。

司会には、発起人代表の中から福井がその役に当り、次のような順序で総会は進行しました。（敬称略）

- 一、開会の辞 レオン・ヴァンデルノルシュ（日仏会館フランス学長）
- 一、経過報告 福井文雅
- 一、議長選出 発起人代表、弥永昌吉（日仏会館副理事長）
- 一、別紙「会則」（案）説明 議長
- 一、会則が一応の承認を得たところで、新会長と名譽会長が次のように選出されました。

会長 President 榎 一雄

名譽会長 Presidents d'honneur 羽田 明 山本達郎 日仏会館フランス学長 (ex officio)

【ここで、議長が新会長へ交替して】

一、役員選出（ABC順）

○顧問 Conseillers d'honneur

江上波夫 市古貞次 岩生成一 井筒俊彦 神田喜一郎

○評議員 Membres du Conseil d'Administration

秋山光和 ユーベル・デュルト 江上波夫 福井文雅 浜田正美 原実 市古貞次 池田温 石沢良昭 岩生成一

弥永信美 弥永昌吉 井筒俊彦 神田喜一郎 加藤純章 川勝義雄 奥晴宏 御牧克己 大地原豊 坂出祥伸 坪井

善明 山口瑞鳳

○幹事 Secretaires

福井文雅 浜田正美 石沢良昭 弥永信美 加藤純章 御牧克己

○主幹 Secrétaire général 福井文雅

○会計幹事 Trésorier (未定)

○監事 Auditeurs (未定)

一、活動計画案

a、日仏兩國の東洋学に関する情報交換のために、学界動向や新刊紹介の記事を載せた『学会通信』Circulaire（年
一回か二回）を発行し、会員間に配付する。

b、日仏兩國の東洋学研究者に、研究発表または情報交換の場を提供する。

c、第三十一回 CISHAANの時に、フランスから来日する研究者との交流をはかる。

一、その他

a、右の活動計画の経費については、来年三月末日までは日仏会館が負担し、四月以降は、会員総会によって決める年会
費によって運営する。（年会費は二千円の予定）。

b、弥永昌吉氏が、日仏間相互の学者交換の制度について説明。

一、閉会の辞 レオン・ヴァンデルノルシュ

総会終了後、新発足を祝って、日仏会館五階の学長宅において、レセプション（カクテル・パーティー）が開かれました。
以上が総会の大体の経過ですが、そこで述べた「経過報告」の詳細は『学会通信』に書く予定です。会則と役員と年会
費とにつきましては、来年二月か三月中に開催予定の会員総会において正式承認を得る予定です。

なお、右の活動計画案cによりまして、九月二日夜七時から、フランス大使館で、CISHAAN参加の日仏研究者の
交歓パーティが、フランス代理大使主催のもとに盛大に開かれましたことを、ここに併せて御報告致します。

昭和五十八年十一月

福井文雅記

附 記

① CISHAANに間に合わせるために、再建総会はかなり急いで開きましたので、御連絡の間に合わなかった方々が相
当にふられました。同封の会員名簿にはそのような方々も含め、また、フランスに直接関係がなくとも、参加を希望さ
れる方もその後加えましたので、会員数は総会当日までの集計よりも増えております。

しかし、旧会員の中でも（例えば津田逸天氏や上野アキ、高田時夫等の諸氏のように）いまだに連絡のつかない方や御
返事を頂けなかつた方々がおられますし、他方、思わぬ洩れもあろうかと思われまます。お心当りの方や、本会への参加
を希望される方を御存知でしたら、御連絡頂ければ幸いです。

② 連絡先は、原則として、「〒101 東京都千代田区神田駿河台二一三 日仏会館 日仏東洋学会」と致します。

③ なお、会員名簿には遺漏や誤記もあるかと思ひます。お心当りの方は御連絡下さるようお願ひいたします。

④ 新発足に際し、日仏会館学長秘書室の川上恭子、林春郎の両氏と、弥永信美氏とに、事務上のことで大変お世話になり
ました。

日仏東洋学会 通信 第一号

一九八四年二月発行

三月十四日(水)に会員総会

昨年夏の再建総会で、役員と会則とが一応決まりましたが、それは次の総会にかけて、改めて承認を得なければなりません。また、会費の額や、会計幹事一名、監事若干名も未定なので、それを会計年度の始まる四月以前に、総会で決めておく必要もあります。

そこで、去る十二月十三日四時から、日仏会館役員室で本学会の幹事を開き、議論の結果、次のようなスケジュールで会員総会を行なうことに決定しました。

三月十四日(水) 日仏会館・二階会議室

電話 (〇三)二九一—一四四

会員総会 五時より

記念講演 六時より

「アルカデウス・オアンジュをめぐって」 榎 一雄

レセプション(カクテル・パーティ) 七時より

於 日仏会館五階 学長室
(フランス学長からの招待です)

準備の都合上、同封の葉書で、月末までに必らず御返事下さい。この総会では議決を行ないますので、欠席の方々は、議決権を議長に一

任して下さいは幸です。その為、誠に惜越ながら、その趣旨の文章を返信用葉書の中にあらかじめ印刷させて戴きました。悪しからず御諒承下さい。

蛇足ですが、日仏会館は、国鉄、地下鉄ともに「お茶の水」「水道橋」どちらの駅からでも徒歩約五分の高台にあります。市ヶ谷にある日仏学院と間違えぬよう御注意下さい。

再建総会までの経過

昨年七月二十二日の日仏東洋学会再建総会で述べました「経過報告」は、おおよそ次のようなものでした。(敬称略)

一

日仏会館は、大正十三年(一九二四)、日仏両国政府の協賛のもとに発足した財団法人である。その設立には、当時の駐日大使ポール・クロードルと渋沢栄一子爵(初代理事長)が中心となった。

この館長は正式には「(フランス)学長」と言うのであるが、この初代フランス学長として、フランス政府はシルヴァン・レイヴィを派遣したのである。会館のもっとも重要な事業の一つは「学者交流」ということであり、フランス政府、日本政府(文部省)の協力によって、学者、研究員の交換が毎年なされている。

この会館と、市ヶ谷にある「日仏学院」はよく混同されるのであるが、後者は一九五一年の設立で、フランス語の教育機関である。法律的には、会館が学院の経営者であり、両者混合の委員会もあるが、一

応は別物と考えておいた方がよい。

日仏会館には、日仏生物学会や日仏演劇協会、日仏歴史学会など二十三の学会があり、その関連学会の一つとして、日仏東洋学会が昭和三〇年（一九五五）に発足した。ここで言う「東洋」は、フランス的に広い意味で、北アフリカやアラビア、イスラムから日本まで含むものである。日仏会館に残っていた東洋学会に関する記録を整理してみると、次のようになる。（記録は断片的なので、今となっては不明の部分も少なくない。）——

初代会長は故石田幹之助。当時の会則によると、本会の主目的は、日仏両国の東洋研究者の間の学术交流、情報交換であり、具体的には、『日本の東洋学文献目録』 *Bibliographie de l'Orientalisme Japonais* の刊行が主な活動であったようである。その為か、当時の会員名簿は残されておらず、この文献目録の作製協力者の名前が（これも断片的に）知られるだけである。そこで、ここではその協力者の方々を「旧会員」と一応呼ぶことにする。

右の目録の第一冊（一九五五年、第一期分）は昭和三十三年（一九五八）の発行で、主幹は石田幹之助、刊行者は日仏東洋学会、刊行事務担当者は会館勤務の伊東英（現在、早大教授）と前川嘉昭。前川氏は、その後長く東洋学会の活動に関与していられたが、数年前退館された。編集委員会幹事は Hayao Tsuda となつてゐる。恐らくはグラネ M. Granet の弟子であり、『支那人の宗教』を邦訳した津田逸夫氏のことであろう。

発行年十月九日の津田氏の記録によれば、会館からの発行補助金三

〇万円、その内、印刷費に二〇万、翻訳に六万、使われたことが判る。編集協力者への謝金、通信連絡費、目録の発送費の費目は立っているが、いずれも空欄である。発送等は確かなにされたのであるが、発送者は会長名になっていて、「石田」の署名もあるので、あとの費目は会長が決済したものと思われる。

新発足に当って、日仏東洋学会名義の預金でも銀行に残っていないかどうか調べて貰ったのであるが、何も残っていなかった。

目録の発行部数は一千部。返信から判った第一冊の送り先には、チャンドラ Lokesh Chandra, ラール M. Lalou, ラーデル J. Rahder, ルノンドー G. Renondeau の諸教授や、ペナレスのサンスクリット大学、アメリカのイェール大学図書館などがある。ところが、昭和三十六年（一九六一年）七月七日の編集委員会の記録によると、石田幹之助、榎一雄、秋山光和、羽田明、山本（達郎か？）、ディエニ Diény（当時の学長代理）が集まって、文献目録の刊行を継続すべきかどうかを議している。日本と欧米とで同種の文献目録が刊行されるようになったからである。結論が出ないままに、この問題点についてはプロシエ H. Brochier フランス学長が旧学長やフランス側に意見を打診することになり、その手紙を次の十人に当日付で発送してゐる。

エリセフ（父・子）S. et V. Elisseeff, フランク
B. Frank, ディエニ P. Demiéville, ガスバルドヌ
E. Gaspardone, アンノート C. Haguenauer, デ・ロン
グノジョン des Longrais, ルノンドー G. Renondeau,

ルネール・R. Sieffert

その返答を持って、プロシエ学長は榎一雄(当時)東大教授と話し合った。その結果、当時印刷中の号をもって目録の刊行は終える旨の確認の手紙(一九六二年一月九日付)を学長は教授あてに送っている。

そして、目録の第二冊で、且つ最終の号(一九五五年第二期と五六年分)が昭和三十七年秋に刊行された。刊行通知状が、仏・英両国語で、石田幹之助名義で書かれている。発送先からの返信が十五通残っていて、山口大学付属図書館文理学部分館や神田・檜書店内『観世』編集部の名が見えるのは面白い。フランスの P. U. F. へ翌年の二月二十六日に、船便で百部送り、販売を委託しているが、但し、「売価は未定」となっていて、収支の記録は残っていない。

『東洋学文献目録』の発刊が、かつての日仏東洋学会の主な活動であったので、少し詳しくその刊行の前後を以上に述べてみた。

その他の活動としては、フランスから東洋学者が来日の時に、日仏会館で講演会を開催することがあり、通知状は、日仏会館の会員になっっている日本人東洋研究者に主として送られていたようである。ドミエヴィル、スタン R. A. Stein、カルタンマルク M. Kaleteniermark、ジヤネネ J. Germeti などの講演会に、石田会長がいつも羽織袴姿で見えていたことを筆者はよく覚えている。

石田会長亡きあとは、第二代会長に故辻直四郎教授が就き、辻会長の病臥後は、榎一雄教授が会長代理を勤めていた。

昭和五十五年(一九八〇)秋、日仏会館関連学会の総会が開かれた

時、たまたまそこへ出席していた福井が、マゴ Magard 学長から東洋学会について相談を受けたことがある。講演会開催やフランス側研究者来日の時の連絡用に、「会員名簿」だけでも整理しておきましよう、と返事し、翌年の四月十日に、八〇名程度の名簿原稿を作製、学長と、弥永昌吉、榎、大地原、松原秀一の四氏に送って補充訂正を依頼した。

その時の作製基準は、第一には、前述の「旧会員」②フランス語圏(フランス本国、ベルギー、カナダ、旧仏領インドシナなど)での生活体験があり、日本に在住する内外の東洋研究者(国外在住者は含まない)③フランス語圏で、東洋学について講演または講義または研究発表をしたことのある研究者④フランス東洋学に関心の強い方であった。

ところが、急に学長が交替して、ヴァンデルメルシュ L. Vandiermeersch が着任。氏は中国学者で、京都と香港、ベトナムに長く留学した東洋通であり、東洋学会の再建事務を改めて福井に依頼された。そこで更に名簿を整理し、発起人の方々の賛同と協力を得て、昨年七月二十二日に再建総会に到ったのである。その間にあっては、秋山光和、弥永昌吉、大地原豊、松原秀一、二宮宏之、坂井光夫の諸先生から多大の協力、助言を頂いている。

二

以上が、再建総会で述べた「経過報告」の内容です。再建総会そのものにつきましたは、去年十二月にお送りした報告に書きましたので、

改めてここでは述べません。その後の新入会員でその報告を入手希望の方がありましたならば、日仏会館・日仏東洋学会あてで御連絡下さる。

会員名簿の訂正と追加

再建総会開催の前後に、「東洋学会の趣旨や活動には関心はあるが、どうもフランス語の力が無いから」と言って、参加をためらう声を聞きました。そこで、本学会への参加基準を前記の四種から枠を広げまして、フランス語の語学力の有無には余りとらわれずに、本会への参加希望者は歓迎することにしていきます。一方ではまだ、総会後に返信が届いた方々もいまして、十二月にお届けしました会員名簿にはそういう人々も入っていますので、再建総会当時よりも会員数はふえています。

今回追加の次の方々を含めると、一月末日現在の会員数は丁度百名になります。

高田時雄 京都大学教養部助教授 中国語学

TAKADA,

Tokio 〇七五―六八一―一五四〇

赤松明彦 京大人文研助手 インド哲学

AKAMATSU,

Akihiko

八木 徹 インド古典学

YAGI,

Tōru

太田美香 早稲田大学大学院・後期課程学生 東洋史

OHTA,
Mika

京戸慈光

仏教学

KYODO,

Jiko

山中一郎 奈良大学助教授 考古学

YAMA-

NAKA,

Ichiro

LOURME, フテネフランセ教師 仏教学

Jean-

Marie

訂正箇所

1. KOBAYASHI, Masaroshi ↓ r を y にする。
2. 坂出祥伸氏の勤務先を、「関西学院大学」↓関西大学に。
3. TSUBOI, Yoshiaki は Yoshiaki を Yoshiharu に。
4. 櫻 一雄氏の専門を、「中央アジア史」に。
5. HIRAI Yūkei にする
6. KATO Junsho にする

日仏会館図書室の利用について

日仏会館の会員でなくとも、誰でも自由に利用できます。開室時間は、一〇時―十八時。閉室日は、日曜、祭日、七月十四日、十二月二五日、夏休み中の土曜日、元旦前後。電話〇三―二九一―一四四

なお、日仏会館フランス事務所編の『新着図書目録(季刊)』

Acquisitions du trimestre が出ていますので、希望者は右の事務所あてで申し込み下さい。振替・東京一―三二七三四年間購読料 千五百円(日仏会館会員は七百円)

本学会に関係しましては、日仏会館所蔵の『東洋関係蔵書目録』

Catalogue Systematique des Ouvrages sur l'Orient, 1978 とその『索引 J Index, 1979』とが、図書室から発行されています。この目録は、昭和四八年(一九七八)十月現在、図書室所蔵の東洋関係の書籍(和書を除く)と雑誌とを収録しており、図書室あてで申し込みれば、両方で千八百円(送料三百円)で購入できます。振替口座は前記に同じです。

その他のお知らせ

- ① 今年三月七日、日仏会館設立六〇周年記念の祝典が、会館内で開かれます。
 - ② 日仏会館の会員になることを希望される方の為に、申込書を同封しました。既に会員の方に入っていましたら、御容赦下さい。
 - ③ 日仏会館は建物の一部を改築・整備して、関連学会の便宜に供しようとしています。
- 東洋学会もその利益にあずかることとなりますので、会館からの要望もあり、募金趣意書を同封しました。
- ④ 先にも書きましたように、日仏会館のもっとも重要な事業の一つは、日仏間の学者・研究者の交流です。その交流には次の二種があ

ります。第一は、フランス政府の協力によるもので、多数のフランス研究員および学術使節が日仏会館を通して派遣されて来ています。第二は、日本政府の協力によるもので、文部省の委託を受け、会館は毎年、日仏学者交換事業を行なっています。(日本人学者四名、フランス人学者二名―八三年度の場合)

関連学会から出す候補者の中から選ばれますので、フランスから来て貰いたい学者、あるいは日本から派遣したい学者・研究者がありましたならば、自薦・他薦にかかわらず、早目に本学会事務局あてにお申し出下さい。日本から行く方は、フランスの研究・教育機関で講演あるいは研究発表を、一、二回する義務があるようですが、フランス側で差支えがなければ、フランス語以外の言語(例えば中国語)での発表も可能かと思われま

刊行附記

日仏東洋学会の『学会通信』Circulaire 第一号をお届けします。再建総会の後片附けの意味で、事務的な報告記事が多くなつてしまいましたが、次号以降では、会員が分担して、日仏学界情報や新刊紹介を書く予定です。

東洋学の分野では、日仏それぞれに独立した別の学会が既に出来ており、紀要も刊行されている現状から考えますと、本学会独自の紀要類を出すことにはいろいろと問題が多く、再建総会でもそれは議題になりませんでした。

本学会の存在理由 *raison d'être* は、会則にもありますよ

うに、日仏の東洋学者の間の交流・情報交換の場、いわゆる「窓口」の役が第一かと思われれます。

そのような情報や窓口の記事、資料になるものがありましたら、是非とも御寄稿下さいますよう、お願い致します。

三月の総会への出欠席について、同封の葉書をどうぞお忘れなく御投函下さる。

(福井 文雅記)

連絡先：
 〒一〇一
 東京都千代田区神田駿河台2-3
 日仏会館内
 日仏東洋学会事務局
 (電)〇三一二九一一一四四

日仏会館の長期刊行物

法宝義林

フランス語による仏教百科辞書

- 第一分冊 阿・梵唄
 - 第二分冊 梵唄・仏足石
 - 第三分冊 仏足石・疑
 - 第四分冊 疑・超越證
 - 第五分冊 超越證・中有
 - 第六分冊 大正大藏經總目錄
- 別冊 「大自在天」まで既刊

フランス語による日本史解説書

日本歴史辞典

- 第一分冊 Aの部
- 第二分冊 Bの部
- 第三分冊 Cの部
- 第四分冊 DEの部
- 第五分冊 Fの部 以下
- 第九分冊 Iの部まで既刊